

オープンキャンパス模擬授業としての 高校生向け教育学入門講義の試行的実践

—ペダゴジーへの誘い—

助 川 晃 洋

2016年8月28日の国士舘大学オープンキャンパスにおいて筆者は、高校生を対象として模擬授業「学力テストで何を測定するのか？—出題の真意を考える—」を行った⁽¹⁾。そこでは、かつて全国学力・学習状況調査で出された小学校算数A・Bの問題（のいくつか）を実際に解いてもらい、ともに題意を付度した上で、小学生が身につけるべき学力の質的側面について講じた。

2017年6月11日の本学オープンキャンパスにおいても、再び模擬授業を担当する機会に恵まれた。さすがに前年度と同じことを繰り返すわけにはいかない。しかし手持ちのふさわしいネタのレパートリーも数に限りがある。そう考えて今度は、同学力の量的側面に着目した。

本稿は、これら二つの授業実践のうち2017年度分に限って、その概要を進行に即して提示することを意図している。2016年度分を取り上げない理由は、すでに年度を跨いでおり、もはや時機を逸したと考えられるため、である。なお以下の文中では、授業中のはたらきかけの事実について述べた箇所とそこで加えた解説の内容を要約した箇所という異質なものが、どうしても混在せざるを得なかった。予めお断りしておきたい。

* * * * *

学校でどのくらい勉強するのか？
－教科内容の漸増プロセスを追う－

1. 歴史上の人物について

1. 与えられた時間は、わずか30分である。そのため講師自身とテーマに関する極めて簡単な紹介以外には、一切の前置きを省略して、かつてどこかのコンビニで購入したワンコイン本（税込500円）『できますか？小学校で習った社会科』から拝借した次の問題に⁽²⁾、いきなり取り組んでもらった。

問1：私はだれでしょう？

- (1) 私は銀閣をつくった室町幕府八代将軍です。(室町時代)
- (2) 私は日本でいちばん最初に憲法をつくりました。(飛鳥時代)
- (3) 私は薩摩藩出身で(16)の人物と協力して、幕府を倒す運動を始めました。(江戸時代)
- (4) 私は『枕草子』を書きました。(平安時代)
- (5) 私は皇族に協力して、大化の改新を進めました。(飛鳥時代)
- (6) 私は武士として初めて幕府を開きました。(鎌倉時代)
- (7) 私は室町幕府をほろぼし、天下統一を目指しました。
(安土桃山時代)
- (8) 私は、蘇我氏をほろぼして、新しい国づくりを進めました。(飛鳥時代)
- (9) 私は武士として初めて太政大臣になりました。(平安時代)
- (10) 私は日本が輸入品に自由に関税をかけることができる条約を各国と結びました。(明治時代)
- (11) 私は足軽から出世して朝廷から関白の位をさずかりました。(安土桃山時代)
- (12) 私は『学問のすゝめ』という本を書きました。(明治時代)

- (13) 私は関ヶ原の合戦で勝ち、全国の大名を支配するようになりました。(安土桃山時代)
- (14) 私は江戸幕府代表として、戦わずに江戸城を明け渡しました。(江戸時代)
- (15) 私は邪馬台国の女王です。(弥生時代)
- (16) 私は薩摩藩出身で、幕府を倒す運動を指導し、新政府軍を指揮しました。(明治時代)
- (17) 私は壇ノ浦の戦いで平氏を破り、平氏をほろぼしました。(平安時代)
- (18) 私は日露戦争のとき、日本海でロシアの艦隊を破りました。(明治時代)
- (19) 私はむすめを次々に天皇や皇太子のきさきにして、実権をにぎった貴族です。(平安時代)
- (20) 私は自由民権運動を進め、立憲改進黨をつくりました。(明治時代)
- (21) 私は大仏建立のためにつくした僧です。(奈良時代)
- (22) 私は元寇を2度防いだ鎌倉幕府の執権です。(鎌倉時代)
- (23) 私は「大日本帝国憲法」を發布した天皇です。(明治時代)
- (24) 私は金閣をつくった室町幕府の三代将軍です。(室町時代)
- (25) 私は中国に渡って修業を重ね、独自的水墨画を完成させた僧です。(室町時代)
- (26) 私は町人や武士たちの生活を描いて人気があった歌舞伎、人形浄瑠璃作家です。(江戸時代)
- (27) 私は聖徳太子の使いとして隋に渡りました。(飛鳥時代)
- (28) 私は長州藩出身で吉田松陰の教えを受けて、幕府を倒す運動を指導しました。桂小五郎の名前でも知られています。(江戸時代)
- (29) 私は唐から日本に仏教の教えを広めるために来ました。そして唐招提寺を建てました。(飛鳥時代)
- (30) 私はスペインから日本にキリスト教を伝えるために来ました。(室町時代)

- (31) 私は4隻の船を率いて、日本に開国を求めにきました。（江戸時代）
- (32) 私は明治時代、自由民権運動を展開し、自由党をつくりました（明治時代）
- (33) 私のはなやかな貴族の暮らしをえがいた小説は、今でも世界中で高く評価されています。（平安時代）
- (34) 私は江戸時代に日本全土の地図を完成させました。（江戸時代）
- (35) 私は浮世絵師です。代表作は『東海道五十三次』。（江戸時代）
- (36) 私は黄熱病の研究で有名な医者です。（大正時代）
- (37) 私は『解体新書』を出版した医師です。（江戸時代）
- (38) 私は内閣の制度をつくり日本の初代内閣総理大臣になりました。（明治時代）
- (39) 私は国分寺を建て、都に大きな寺と大仏をつくりました。（奈良時代）
- (40) 私は「武家諸法度」を制定した江戸幕府の将軍です。（江戸時代）
- (41) 私は外務大臣として、日本で罪を犯した外国人の裁判ができるようにしました。（明治時代）
- (42) 私は国学者です。『古事記』の注釈書、『古事記伝』を書きました。（江戸時代）

解答時間の終了を告げた後、いくつかについてだけ答え合わせをした。本人曰く「日本史はやっていない」という理由で、正解が皆無の者がいたことには、心底から驚かされた。しかし正誤の多寡は、とりあえず関係ない。考えるべきことは、なぜ42人の「私」のことを「小学校で習った」と言い切れるのか、その根拠だからである。

2. 我が国には学習指導要領という一種の法令文書（文部科学省告示）が存在し、それが、教育課程の国家的・大綱的基準として、学校での子どもの学習内容（＝教師の指導内容）を規定して

おり、およそ10年ごとに改訂されている。そして2008年版小学校学習指導要領では、第6学年社会・歴史的分野の内容の取り扱いについて、次のように述べられている。

例えば、次に掲げる人物を取り上げ、人物の働きを通して学習できるように指導すること。

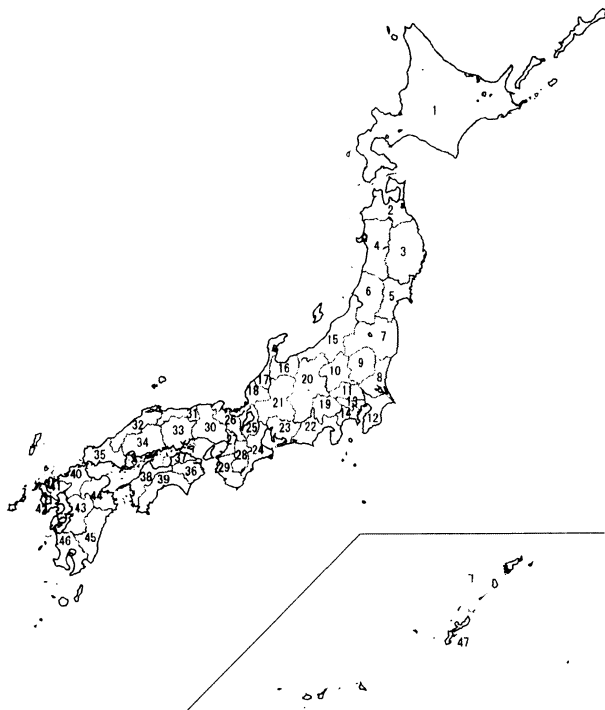
卑弥呼、聖徳太子、小野妹子、中大兄皇子、中臣鎌足、聖武天皇、行基、鑑真、藤原道長、紫式部、清少納言、平清盛、源頼朝、源義経、北条時宗、足利義満、足利義政、雪舟、ザビエル、織田信長、豊臣秀吉、徳川家康、徳川家光、近松門左衛門、歌川(安藤)広重、本居宣長、杉田玄白、伊能忠敬、ペリー、勝海舟、西郷隆盛、大久保利通、木戸孝允、明治天皇、福沢諭吉、大隈重信、板垣退助、伊藤博文、陸奥宗光、東郷平八郎、小村寿太郎、野口英世

直上の枠内に列挙されている42人は、全国の小学生が、社会の時間に例外なく学ぶべき(=小学校教師が、そこで必ず教えないければならない)歴史上の人物として指定されているのであり⁽³⁾、順不同ではあるが、問1の解答そのものである。すなわち学習指導要領を一律の基盤とするからこそ、同学年や同世代の人間の誰しもが、同じ学校段階で、同じことを勉強した、という共通体験が形成されるのだ。不特定多数の読者に向けて、「できますか?小学校で習った社会科」という(受け取り方次第では、やや)挑発的な言い方が通用するのは、このためである。

II. 47都道府県をめぐって

1. 2007年12月~2008年2月に日本地理学会は、2007年度大学生・高校生地理認識調査を実施している。このうち高校生対象の全5項目中の3「10都県の位置を日本地図上に記した番号から選択」に当たる次の問題に解答するように、全員に指示した。

問2：下記の都道府県の位置を下の白地図の中の1～47から選び、表の中に記入してください。



a 秋田県	b 栃木県	c 東京都	d 長野県	e 愛知県
f 石川県	g 奈良県	h 島根県	i 愛媛県	j 宮崎県

しばらく時間を取った後、答え合わせをした。挙手にて確認したところ、今回は、全問正解者が大多数を占めていた。

2. 2008年3月19日に出された同学会「調査報告」⁽⁴⁾の表紙には、「宮崎県はどこ？半数以上の高校生が答えられない」と大きく記されており、20日の朝日新聞では、次のように報じられている（21日の宮崎日日新聞でも、同様の記事が掲載されている⁽⁵⁾）。

学会調査 宮崎どこ？高校生6割誤答／地理教育も「どげんかせんと」

高校生の6割近くが、地図上で宮崎県の場所を答えられず、大学生でも約3分の1が分からない。日本地理学会は19日、こんな調査結果を発表した。国の位置を問う問題でも、イラクの場所を答えられたのは高校生の約4分の1、大学生の約半数。同学会は「知事が話題となっても、宮崎の場所を正確に知っている生徒は少ない。地理教育の充実が必要不可欠だ」と訴えている。

調査は同学会の地理教育専門委員会が昨年12月～今年2月、全国の51校（うち37校は東京都内）に通う6159人の高校生と31大に通う3747人の学生を対象に実施。白地図から10都県や10カ国の位置を選ばせた。

都県では、高校生の正答率は宮崎が最低で、愛媛とともに5割を切った。大学生でも愛媛、宮崎、島根の3県は約3分の2にとどまった。宮崎の場合、隣県の熊本、大分と取り違えた学生が多かったが、音の響きから東北の宮城と間違えた例もあった。

国では、フィンランド、ケニア、ベトナム、スイス、イラクの正答率が高校生で5割未満。イラクは大学生になると5割を超えたが、3年前の調査に比べると、正答率は6.3ポイント落ちていた。

東国原知事「もっとPR」

宮崎県の東国原英夫知事は「学校教育の問題ではないか」としつつ、「まだまだ（PRを）頑張らないといけないですね。次からテレビに出るときは、地図を持って出ましようか」と話した。

都県の位置を正しく答えられた割合（％）			国の位置を正しく答えられた割合（％）		
都県名	高校生	大学生	国名	高校生	大学生
東京	93.0	95.1	米国	83.6	95.6
長野	80.8	91.0	ブラジル	79.3	92.3
秋田	77.3	85.5	インド	77.4	96.7
石川	76.8	87.2	北朝鮮	66.6	88.7
愛知	66.1	84.5	フランス	60.4	84.9
栃木	65.2	79.3	フィンランド	44.7	63.3
奈良	62.5	78.6	ケニア	44.4	63.9
島根	51.5	65.9	ベトナム	38.8	67.0
愛媛	49.6	68.5	スイス	37.6	67.8
宮崎	42.7	67.3	イラク	25.6	50.2

調査結果を受けて同学会は、「国際社会に生きる日本人として必要不可欠な地理教育の充実を」アピールしている。この「提言」が、単独で学校教育のあり方に何らかの直接的影響を与えるほどのインパクトを持ったとは、さすがに考えられない。それどころか中央教育課程行政レベルでの議論の中では、取り上げられた形跡がどこにも見当たらず、したがって完全に黙殺されたと言った方が、おそらく正しい。しかしこれと同様の主張は、2008年時点の我が国において、関係各所で、実はかなり広く支持・共有されていたようだ。小学校学習指導要領の同一箇所（第2章 各教科－第2節 社会－第2 各学年の目標及び内容－〔第3学年及び第4学年〕－2 内容（6）ア）における記載の変化から、それをはっきりと窺い知ることができる。1998年版小学校学習指

導要領では、第3・4学年社会・地理的分野の内容について、次のように述べられている。

県（都、道、府）内における自分たちの市（区、町、村）の地理的位置

これが2008年版小学校学習指導要領では、次のように改められている。

県（都、道、府）内における自分たちの市（区、町、村）及び我が国における自分たちの県（都、道、府）の地理的位置、47都道府県の名称と位置

3. 2016年5月18日の朝日新聞では、次のように報じられている。

小学校の必修漢字に都道府県名20字追加 20年度にも

文部科学省は17日、埼玉の「埼」や大阪の「阪」、熊本の「熊」など都道府県名に使われている漢字20字を新たに小学校の必修漢字にする案を文科相の諮問機関・中央教育審議会に示した。2010年に都道府県名がすべて常用漢字になったため。20年度にも導入され、小学校国語で学ぶ漢字は計1026字となる。

文科省によると、都道府県の名前と位置は小学4年生の社会の時間で覚える。教科書では、いま必修になっていない漢字はかなが振られている。

必修の漢字は1989年以降、1006字を保ってきた。小学生は学年が進むにつれて漢字の正答率が下がるため、大きく増やすのを避けてきたためだ。しかし、都道府県名が常用漢字になったことや、社会の教科書では扱われてきたことなどから、必修化するのが妥当と判断した。

案では、20年度に始まる小学校の新学習指導要領で、各学年で学ぶ漢字を示した「学年別配当表」に20字を追加する。何年生でどの漢字を学ぶかは今後検討する。中教審は今年度内に案に沿った答申を出す方針だ。

「学年別漢字配当表」に追加が予定されている漢字20字は以下の通り。

茨、媛、岡、潟、岐、熊、香、佐、埼、崎、滋、鹿、縄、井、沖、栃、奈、梨、阪、阜

2016年12月21日に出された中央教育審議会の「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」では、小学校国語の内容の見直しについて、次のように述べられている⁽⁶⁾。

漢字指導の改善・充実の観点から、児童の学習負担を考慮しつつ、常用漢字表の改定（平成22年）、児童の日常生活及び将来の社会生活、国語科以外の各教科等の学習における必要性を踏まえ、都道府県名に用いる漢字を「学年別漢字配当表」に加えることが適当である。

そして2017年版小学校学習指導要領では、国語での漢字の指導の際に配慮すべき事項として、次のように述べられており、上記20字が、すべて4年生に配当されている。

他教科等の学習において必要となる漢字については、当該教科等と関連付けて指導するなど、その確実な定着が図られるよう指導を工夫すること。

4. 小学校の教科内容は、1998年版、2008年版、2017年版の三つに着目する限りにおいて、学習指導要領改訂のたびに、その都度の社会の学力要求を受け入れることで、明らかに増加をた

どっている。国が「脱ゆとり」の方針を打ち出している以上、この傾向は、今後しばらくは継続するに違いない。現状維持はあり得ても、減少することは考えにくい⁽⁷⁾。では限られた授業時数の中で、子どもの学力の保障・向上をめざして、学校と教師はどのように指導したらよいのか。教育学が直面する実践的課題の一つは、いま、間違いなくここにある。

* * * * *

上述した筆者の授業について、高校生が果たして好意的に受けとめてくれたのかどうか、彼／彼女らの進路選択（大学側からすれば、志願者の増加）に貢献することができたのかどうか、正確なところは、全くわからない。この点で、上述の実践は、あくまでも試行の範囲にとどまっている。今後は、関係者の負担増とならない程度に、例えばちょっとしたアンケートのようなシンプルな形で、授業評価や効果検証の仕組みが整備されてもよいかもしれない。

ただ授業担当者としては、当日に向けて、それなりに入念な準備をし、教室では、できるだけ平易な言葉で語りかけるように努めたつもりである。あくまでも主観的な印象ではあるが、参加者の反応は、決して悪くないどころか、おおむね良好なものだった。筆者のささやかな試みによって、たとえほんの何人かでも、教育学—実態を踏まえて、もう少し詳しく言えば、「教える」と「学ぶ」という営みにかかわるペダゴジーとしての教育学⁽⁸⁾—に興味を持ってくれたのなら、まことにありがたいことであると言うほかない。反省すべき点がいくつもあることは、もちろん重々自覚している。改善策を練った上で、次の機会に臨みたい。

注

- (1) 大学教員が高校生に面と向かって語りかける別の機会として、出前講義（本学の語法に従えば、デリバリー授業、或いは出張模擬授業）がある。筆者の活動実績は、次の通

りである。ただし本学に着任した2015年度以降は一度も行っていないため、前任校・宮崎大学在職期間中、それも最後の3年間のうちに、公式ルートを通じて依頼があり、引き受けたものに限って列挙する。

- 2012年 6月22日 宮崎県立福島高等学校
- 9月29日 宮崎県立宮崎大宮高等学校
- 12月1日 宮崎県立日南高等学校
- 2013年 6月15日 鹿児島県立鹿屋高等学校
- 6月22日 宮崎県立小林高等学校
- 7月13日 宮崎県立日南高等学校
- 2014年 5月31日 宮崎県立宮崎北高等学校
- 9月19日 宮崎県立宮崎西高等学校
- 9月20日 宮崎県立高鍋高等学校
- 10月24日 宮崎県立福島高等学校

- (2) 浜田経雄監修 『できますか？小学校で習った社会科』制作委員会編集 『できますか？小学校で習った社会科』サンリオ 2012年 pp.97-118.
- (3) 2017年2月14日に公表された小学校学習指導要領改訂案では、取り上げるべきとされる人物それ自体には変更がないものの、「聖徳太子」は「聖徳太子（厩戸王）」（中学校では、逆に「厩戸王（聖徳太子）」、「歌川（安藤）広重」は「歌川広重」と表記されていた。15日の朝日新聞では、その理由が、「文科省によると、正しくは『厩戸王』で、没後100年くらい後の書物で『聖徳太子』と紹介された」ため（しかし「人物を中心に学ぶ小学校ではよく知られた『聖徳太子』」の方を、「中学校では正式名を先に出した」）、『安藤』は本名だが、浮世絵師としては『歌川広重』を名乗ったため、と報じられている。しかし2017年版小学校学習指導要領では、「聖徳太子」の方は、結局元通りの表現に戻っている。3月20日の朝日新聞では、その経緯について、次のように報じられている。

文科省は15日まで、改訂案についてパブリックコ

メントで意見を募ったが、特に不評だったのが聖徳太子の表記。改訂案では、小学校で「聖徳太子（厩戸王）」、中学校は「厩戸王（聖徳太子）」としていた。学会などの歴史研究を踏まえたもので、小学校ではよく知られた「聖徳太子」を、中学校では史実を重視して「厩戸王」を前に出した。ところが、「小中で表記が異なると教えづらい」といった声が相次ぎ、国会でも「連続性がなければいけない」「歴史に対する冒瀆だ」と批判された。

このため、文科省は小中とも「聖徳太子」に戻し、中学の指導要領では「古事記や日本書紀で『厩戸皇子』などと表記され、後に『聖徳太子』と称されるようになったことに触れる」と加えることにした。

- (4) 「大学生・高校生の地理認識の調査報告」 (<http://www.ajg.or.jp/chirikyoiuku20080319.pdf>、2017年3月15日接続確認)
- (5) 2008年5月13日に宮崎県では、地理的認知度が低いというピンチ（日本地理学会の調査に加えて、同じく「日本の白地図に各都道府県名を当てはめる問題」を用いて「財団法人総合初等教育研究所（岐阜県）が2007年2～3月、北海道から九州までの21都道府県の5、6年生3962人（23小学校）を対象に行った調査」でも、「宮崎の正答率は46.9%で全国最下位」だった）を逆手にとって、日本地図上で県の位置を指し示したイラストと「宮崎はココやが！」という吹き出しをバックプリントしたTシャツが、県物産振興センターから売り出された。県庁隣のみやざき物産館KONNEでは、用意した300枚が初日わずか6時間で完売し、月末まで入荷待ちとなるなど、県内外の幅広い客層から思わぬ人気を博した。以上、18日の宮崎日日新聞と当時宮崎県民だった筆者自身の見聞による。
- (6) 文部科学省教育課程課・幼児教育課編 『別冊初等教育資料』2月号臨時増刊（通巻950号） 東洋館出版社

2017年2月 p.127.

- (7) 同上 p.10. (「今回の改訂は、学びの質と量を重視するものであり、学習内容の削減を行うことは適当ではない」。)
- (8) 木村元・小玉重夫・船橋一男 『教育学をつかむ』 有斐閣 2009年 pp.1-8.